

洞窟生物学入門 ー第3回 コウモリー



石田 麻里 (ISHIDA, Mari) 美祿市立秋吉台科学博物館・山口ケイビングクラブ所属 山口県在住)

はじめに

コウモリは洞窟内で見られる生物としては比較的大きいもののひとつであり、時には大きな集団を形成するため、目につきやすい存在です。しかしながら、その生態は一般にはあまり知られていません。

今回はコウモリについて、その生態や見分け方などを紹介したいと思います。

コウモリ

コウモリ類(翼手目)は18科202属1,116種からなり、げっ歯類(ネズミやリスの仲間、全2,277種)に次いで世界で2番目に種の多い哺乳類です。すべての種に前肢が変化した翼があり(図1)、哺乳類の仲間では唯一、自由自在に飛翔できる動物です。体の大きさは種によってさまざまで、もっとも小さいものでは体重1.5g(キティブタバナコウモリ)、もっとも大きなものでは体重1,500g前後(ジャワオオコウモリ)に達します。

コウモリ類は極地方を除く世界中に広く分布しており、種によって形態や生態はさまざまです。食べ物も、昆虫、植物(果実、葉、花蜜、花粉)、脊椎動物(魚、カエル、小型の鳥類や哺乳類など)、血液などと多岐にわたり、種数の多いコウモリ類の多様性の高さがうかがえます。



図1 翼竜、鳥類、コウモリ、ヒトの骨格の比較 (「The world of bats」(1993) TFE Publications より図版引用)

日本のコウモリ

日本国内には、北海道から沖縄までの広い範囲に5科13属、37~40種(研究者によって異なる)のコウモリが生息しています(表1)。日本に生息する哺乳類のうち、もっとも種数が多いのはコウモリ類です。

沖縄や小笠原など南西諸島に生息している2種のオオコウモリ(前腕長:120~145mm、体重:250~660g)は、花や葉、果実など植物を中心に食べます。一方、それ以外の日本産コウモリ(前腕長:27

~72mm、体重:3~61g)はすべて昆虫(クモなど節足動物も含む)を食べます(「食虫性コウモリ」と呼ばれる)。

食虫性コウモリは、一晩に体重の3分の1から3分の2の重さの食物を食べるといわれています。コウモリの食物となる昆虫には農林業や衛生上の害虫も含まれているため、コウモリは人間にとって益獣といえるでしょう。

日本に生息するコウモリは、オオコウモリも含めて半数以上が植物体(樹冠や樹洞、樹皮の下、枯れ葉の中など)を、一部のものは人工物(家屋、橋の下など)をねぐらにしています。洞窟を主なねぐらにしている(季節的・一時的な利用もむ)のは十数種で、「洞窟性コウモリ」と呼ばれています。代表的なものはキクガシラコウモリ、コキクガシラコウモリ、ユビナガコウモリ、モモジロコウモリ、ノレンコウモリ、テングコウモリ、ウサギコウモリなどです。

洞窟性コウモリの1日

コウモリは夜行性の動物です。日中は洞窟で休み、日が沈む頃に洞窟を出て、森林内や川の上空などで飛翔しながら夜行性の昆虫などを捕えて食べます。一部の種は「ナイトルースト」と呼ばれる夜間のねぐら(樹木の枝や橋の下、家屋の軒先など)をもち、捕獲した昆虫を食べたり休憩したりします。日の出が近付くと

■オオコウモリ科	
クビワオオコウモリ (口永良部島~八重山諸島)	
オキナワオオコウモリ (EX)	
オガサワラオオコウモリ (小笠原諸島)	
■キクガシラコウモリ科	
キクガシラコウモリ (北海道~九州)	
コキクガシラコウモリ (北海道~奄美諸島)	
オキナワコキクガシラコウモリ(沖縄本島~宮古島)	
ヤエヤマコキクガシラコウモリ (八重山諸島)	
イシガキコキクガシラコウモリ (石垣島)	
イリオモチキクガシラコウモリ (西表島)	
■カグラコウモリ科	
カグラコウモリ (八重山諸島)	
■ヒナコウモリ科	
クロアカコウモリ (対馬)	
モモジロコウモリ (北海道~九州)	
ドーペントコウモリ (北海道)	
ウスリホオヒゲコウモリ (北海道)	
ヒメホオヒゲコウモリ (北海道~本州)	
エゾホオヒゲコウモリ (北海道)	
ヒメホオヒゲコウモリ (北海道)	
フジホオヒゲコウモリ (東北、富士山)	
オセホオヒゲコウモリ (尾瀬)	
シナノホオヒゲコウモリ (長野)	
クロホオヒゲコウモリ (本州~九州)	
ヤンバルホオヒゲコウモリ (奄美諸島~沖縄本島)	
カグヤコウモリ (北海道~本州)	
ノレンコウモリ (本州~九州)	
アブラコウモリ (北海道~八重山諸島)	
モリアブラコウモリ (本州、四国)	
オオアブラコウモリ (北海道、青森、対馬)	
クロオオアブラコウモリ (北海道、青森)	
コウライオオアブラコウモリ (対馬)	
オガサワラアブラコウモリ (EX)	
キタクビワコウモリ (北海道)	
クビワコウモリ (本州)	
ヤマコウモリ (北海道~九州)	
コヤマコウモリ (東北)	
ヒナコウモリ (北海道~九州)	
ヒメヒナコウモリ (礼文島)	
チチブコウモリ (北海道~本州、四国)	
ウサギコウモリ (北海道~本州、四国)	
ユビナガコウモリ (本州~九州)	
リュウキュウユビナガコウモリ(奄美諸島~八重山諸島)	
テングコウモリ (北海道~九州)	
コテングコウモリ (北海道~九州)	
リュウキュウテングコウモリ(奄美諸島~沖縄本島)	
クチバテングコウモリ (対馬)	
■オヒキコウモリ科	
オヒキコウモリ (北海道~九州)	
スマイロオヒキコウモリ (口永良部島、奄美諸島)	

* (EX) は環境省レッドデータブック(2002)により絶滅種とされている種。

表1 日本のコウモリ類リスト (「知りたいサイエンス! コウモリのふしぎ~逆さまなのにもワケがある~」(2007)技術評論社より図版引用)